

環境学部では学部全体でSDGsや脱炭素社会実現に貢献

横浜キャンパスでは、10時から環境学部、13時からメディア情報学部が、それぞれの全体説明会を実施し、その後、学科・クラス別の懇談会と、希望者に対する個別面談を行いました。



史中超環境学部長 環境学部の全体説明会。学部・学科の近況や学修、就職などの説明がありました

環境学部の全体説明会では、環境学部長 史中超教授が、「2023年度は、横浜キャンパスに、新しい学部、デザイン・データ科学部を開設し、2025年度をめどに新棟の建設を検討しています。また現在、文部科学省の事業認定を受けて、環境学部を中心に、全学あげて、脱炭素社会の構築に必要なDX人材育成プロジェクトを推進中です。SDGsの進展にも力を注いでいます」と、横浜キャンパスや環境学部の最近の取り組みをアピールしました。

その後、教務委員長 馬場健司教授より、学修や成績、卒業要件の説明があり、「本学では厳格な成績評価基準であるf-GPAを導入している。保証人の皆様も、成績通知書の重要なチェック項目として、f-GPAに着目して確認してほしい」と助言がありました。

保証人から高い関心を集める就職状況については、キャリア支援センター 渡邊光洋課長から、「大手企業やメーカー、サービス業の採用意欲が回復傾向にある。ただし状況の変化はかなり激しく、エントリーや選考の方法も多様化している」と説明しました。

懇談会は保証人と大学とのコミュニケーションの場

続いて各学科学年・クラス別の懇談会を行いました。環境経営システム学科Aクラスの懇談会では、担任の古川柳蔵教授が、「クラスの学生全員と面談を行いました。1年次生でも将来の研究テーマを決めている学生がいるが、多くはまだ迷っている。迷いながらも前進して、大学でしかできない学問に励んでほしい」と話しました。

Bクラスの岡田公治教授は、「クラス担任制度は、学生の健全な学修、生活のために導入したものです。保証人も今後、密に連絡を取り合いたい」などと伝えました。

大学と保証人との交流、連携は、学生が安心・安全に学修、研究と向き合うためにも、とても重要なことです。次回の連絡会にも、ぜひ多くの保証人が参加されるよう期待しています。



10月ながら気温30度近くと汗ばむ陽気の中、多くの保証人がご参加くださいました。

浜松会場

ウィズコロナにおける大学の取り組み

世田谷キャンパス 学生支援センター係長 松永 俊幸

昭和42年の開催から数えて今年で56回目を迎えた「保証人対象 大学との連絡会」。今年度は全国19会場で開催いたしました。今回は「浜松会場」からご報告いたします。

『浜松会場』は、9月10日(土) 13時30分より「オークラアクロシティホテル浜松」を会場に開催し、14世帯15名の保証人の方にご参加いただきました。

大学からは教職員4名が現地に出向き、当日配布した冊子とパワーポイントによるスライドを用いて、ご説明申し上げました。「大学の近況」では、デザイン・データ科学部デザイン・データ科学科の開設、世田谷キャンパスのリニューアル計画、コロナに関する各種対応、「学修の流れ」では、4年間の学修の流れや成績通知書の見方、「キャンパスライフ」では学生生活の支援体制、「就職・大学院進学」では就職支援体制と各種支援、大学院進学のメリットについて説明をさせていただき、大学の「いま」につ

いて理解を深めていただけたかと思えます。

特に、大学における新型コロナウイルスの感染対策を踏まえた上での教育活動や研究活動については高い関心をお持ちでした。感染対策と教育活動や研究活動をどのように両立させていくかが今後の課題になると感じました。

学生のみなさんが安心して学ぶことができるような環境を作るよう努めます。今後とも保証人のみなさまと情報交換をさせていただき、より良い大学として発展してまいります。

